

中国、「習-李体制」始動へ



中国の全人代に臨む左から胡錦濤国家主席、共産党総書記の習近平国家副主席、李克強副首相、温家宝首相=5日午前、北京の人民大会堂(共同)

国防費10.7%増 全人代開幕首相「海洋経済開発」に全力

東シナ海や南シナ海で「守る」と表明した。中国が領有権を主張する沖繩県・尖閣諸島への直接的な言及はなかった。

米の自動車関税で譲歩 TPPで農産物例外を主張

米の自動車関税で譲歩 TPPで農産物例外を主張

樹海 「日産」海外生産が7割超えとの報道に接し、他も調べてみるとトヨタも60%台に乗せ、ホンダに至っては80%を超えようという勢いだ。

改憲を加速、靖国参拝も 自民、参院選視み運動方針案

民主「黒田総裁」同意へ 日銀岩田教授には反対

脱税で丸源ビル所有者を逮捕

川崎、アパートに人の右足首

施工不良や見逃しか 笹子トンネルボルト挿入、半分以下

改憲を加速、靖国参拝も 自民、参院選視み運動方針案

脱税で丸源ビル所有者を逮捕

助教殺害の学生に無期懲役

ALFAINTER TURISMO アルファインテル南米交流

VIAJAR É VIVER INTENSAMENTE! Pacote para o feriado de Corpus Christ









ニッケイ俳壇 (734)

星野 瞳 選

セラドクリスタス 樋口玄海児

虹消えて妹さよなら云はざりし 墓地の名はフランボエヤン朝の蟬 広いいづみの農園残し逝く 妹やぐみの実りもまたす逝く

○12月22日 天国に旅立ちました。プラジルでたった一人の妹でしたので、がっかりして居ります。長い間俳句を見てやっつけて下さしてありがとうございました。大橋昭子さんは、兄の家からカンピナスの大橋家に嫁いで来て居られた。婚先は何かの広い農園であった様だ。4年前頃から、俳壇に投稿して下さっていた。また句友を一人亡くした。 サバウロ 杉本 絃一

新年の細脚しとて客殺し 迎春や共に苦難を越えて来し 冠水の家具をいたわる大出水 麻州路の直射日光夏帽子

カンボスも気温上りて鳴く蛙 蓮の葉の青より濃ゆき雨蛙 玉を解く芭蕉の彼方蒼い空 カンボスの七峯より雷の音

健康かな日焼の孫の笑み顔 床すれの無き病妻に天瓜粉 界わいの子等賑やかに夏休み 全身を泥にまみれて蓮根掘る

ニッケイ歌壇 (435)

上妻博彦 選

サンパウロ 武地 志津

日本より四カ月振りに届く荷を解けば目に立つ相撲の難誌 横綱に昇進成りし日馬富士の笑み晴ればれと表紙を飾る 本領の鋭い取組み連発の軽量力士日馬関に沸く 信条は「全身全霊」日馬富士魂こめて白鵬制す 賞杯と愛児を膝の日馬関を後援者たちの笑顔が囲む

「評」一昔前はラジオが克明に実況放送した。小生、NHKなどだが、この作品には、当時のときめきを感じさせる。さすが。 サバウロ 相部 聖花

紅のさるすべり今盛りなり風に舞い落つ小きき花 移りきて香り失せしか菊の花色はさやかに豊かに 秋の空澄みて咲く菊故郷の菊の香りの懐しきかな 料理の本買ひし日の夜は何となく豊かになりて台所に立つ 弟の手紙に答えて返信書く楽しみ今無し秋の夜長に

サンジョゼドスカンボス 大月 春水 裏話聞き退きて行く夏時間 行く春や胸しめつけらる計の知らせ お祝ひの子等並び居る父卒寿 病廊の感解冷めたき浅き春

ロテリアの買始めをして朝散歩 ソロカバの暑さにも慣れ西瓜切る 雨降って涼しさ戻りつばめ飛ぶ 裸女等のサンバを打って練習会

さわやかな嬰児のあくびに祖母見とれ さわやかに産着の嬰児そとを抱く 秋暑く採血の腕に痣のあと 果て知れぬ麻州広原豆の秋

炎天下の国道ふさく牛の旅 おさがるで年児双子と入ラナ河 入学靴も帽子もブカブカで

夏の草よく伸び日曜も草取りす モジアナの父母をまぶたに雑煮食ぶ 子供等はお雑煮よりもバナナトネ 年始め大正生れも老いしかな

パイネラ二階造りのかまどの巢 稲光り停電ぐせつきノベール見す 夫逝きてより十回忌秋彼岸

「評」1首目3句で「盛りなり」と止めてあるので、5句の「風に舞い落つ」につなぎ、「小きき花房」と体言止めにした方が作品が引き立つのでは。参考までにふり替えて見た。5首目の返信の楽しみがない理由づけのため、「返書せし」などと考えて見たが如何や。 遠藤 勇 中がおり踊りてカルナル雨ものかは風もものかは うちの苦勞も憂さも洗い去るこの熱演は力の泉 軽やかにサンバ踊れるムラタの豊かな姿体周囲を 圧す 夫そがれの明るさ長き夏時間仕事帰りの散歩親しむ 夏時間終わって夕ぐれ早くなり夕餉の支度忙しくなる

イタチーバ 森西 茂行 教員は聖職者なり教師の日 毎日を新生なりと夏盛り 墓参り親の苦勞に感謝して 先祖吾の根本に當り慕参る

髪刈つてうなじ涼し夏の朝 平成も二十五年の初日の出 初夢は夫語らず一人笑む 新年会東方遠拝しに始む

雨季寒し一人の音に一日暮れ わが巳年八回重ね年明けける 夏やせもせすに老いても食いしんぼ 夏時間遅寝遅起きして忙わし

緑濃き大樹倒すや夏の雨 汗さつと流すやシャワー幾度も 娘の帰る刻をほけしき一はたがみ 日盛りの東洋街の人あふれ

カミニヤード目指すは深山の隠れ滝 山道をぬければ紫陽花目路はるか 夏の宿食事を知らず鐘ひびく 登り来てミナスの山宿灯涼し

アフリカの風物詩なるカーニバル 風鈴の舌舞い上る夕べかな バラこぼれ吐息のこもる句座静か 梅を干す景なつかしき里遠し

「評」移民の国に少年時に渡った人の心情がよく表現されていると思う。3、4、5首に心を打たれる。 武田 知子 かけがえの無きは命と震災の放映つめ暇ぬらしぬ 年輪が母の着物に近づいて袖通しみる母を偲びて 風習は無けれど豆を煎る厨筋分の日遠き思ひ出 カーニバル映像を見る華やきや眼前に見しは浅草の街 連休を手持ち無沙汰の孤独感グラスを変えてカンパリソウダ

サンパウロ 真藤 浩子 金魚玉見る子のすでに大目玉 街極暑露天の水売り声高く 冷麦に三筋朱の色眼に染し 思い知る信号待ちの暑さかな

此の頃の変わり易きは夏の空 カルナルテレビに心落ちつかず 午後七時空まだ明るき夏時間 ささやかに老いる話や夏の夜

忘れぬ山家に見たる群れはたる ストレスも消え失せしかにサンバ踏む 老いて尚詠み合う仕合せ初句会 炎天をいと好むかに雲の峰

バラ散りて地に咲く如く雨上る 雨宿り店客はんじょう物売れず 夏の行くいくつも石につまづく 夏料理箸を染め居り荷荷漬

夜香花の昼にほほみで捨てられし 雨ごとに残暑とすれ行くばかり はからずも猛暑となりしキャンピング 朝残暑大と日課のウオキング

二月月は災害地残し去って行く 二月来てまだまだ暑い酷暑かな 娘住むアタマンチーナの初日の出 俳壇を賑わす句友の早二月

「評」4首目共感する所あり、いよいよ孫等が大学を修むる年となり、感謝あるのみです。ならぬ事はならぬうちに、先日の小生の評中、「短歌人」の所、脱字で「短人」となった。深く謝する。 イヒラナ 竹内ひろむ タンボボは平和に咲けり道端に車の危険も怖さも 知らず すぐの子果を飛び立ちて地に落ちぬ親は必死で 子を呼び庇う 魚釣りにバラストを歩いて数匹のダニに食はれて夜 通しを掻く 悲惨なりナイトクラブの火事にして大勢の命若者 死せり 一時時計の針を後に戻し何だか大きな得をした 気持ち

サンパウロ 佐古田町子 ままごこの幼き思ひ出秋の草 無き詩情しほりて作句秋灯下 奥行の深さの和語やホウの秋 テロリズム絶えることなく愁思濃し

風あると告げて窓辺の秋さくら コスモスや姉妹そろってつきりよう良し プラジールもやはり四季あり柿の生る 柿熟れる次男一番親思ひ

柿熟るや母は米寿父寿 コスモスの黄一色に花の波 熟れ柿を落して鳴いて小鳥去る 秋晴れやほつと一息茶の時間

秋晴れに久しぶりなるゲート場 ちぎり絵のコスモス中々むづかし 一年の働きたためてカルナル カルナルバルうとり見とれ取る調子

秋景色とりどりに咲き乱れ 秋風を頼りに枝の先なる柿をもく 秋風の頬にやさしい散歩道 街中の小さな庭にも小鳥来る

軒下の物干し竿に吊るし柿 秋晴れに満飾のすすぎ物 熱狂的踊りも見るもサンバから 流れ星願いをかけて追いかける

「評」「何だか大きな得をした」この人には、理屈も不満も、身構えもない。「評」などなにもいらぬのだが。 新島 新 暮れの事刺身を食べて居た時に下の入れ歯の抜け 口にする刺身もぐもぐ噛み切れず食べてる内に思 いに至る 老妻は間抜けもいと云うけれど喉につまらす 事故を思えば 結局は入れ歯の行方分からず三度目となる義歯 の散財 新らしき入れ歯を作る型をとる石膏口腔にしばし 息止め 「評」大事に至らず何よりです。5首目の「石膏」を加え、息を止めるのも大変だと想像しませう。 アルバラナ 白鹿 ちよ 突然に光の走る空見上げ衝撃を受けて人等転びぬ 隕石の衝撃を受けて窓ガラスもびんじんに割れて傷つく 人等 瞬間の隕石写しし人の業此の上もなき天晴れな事 隕石の走る映像見る毎にテレビの前に釘付けとな る 隕石の破片を拾う人のあり地球に無き石は宝とな るか

ホンベイヤ 作野 敏子 コスモスの揺れて楽しい朝の風 絵手紙に大きな紅い柿一つ 流星や頭はなれぬ願ひごと カルナルバル老いも若きもサンバ踏み

秋晴れや口笛吹いて散歩人 コスモスや風の意のまま右左 朝市や柿のパンカに歩を止めて 庭の柿今年も子等に干し柿に

12月22日 天国に旅立った樋口玄海児の妹 大橋昭子さんの遺詠 大虹を眺める我のいと小きき 白イペー町呑み込んで花散らす

帰る鳥遠望鏡で追ふ暮春 里帰りこの度ゆつくり赤とんぼ ボツボツと喜雨来朝顔の種を蒔く 大虹に伽の国と化せし如

十一月十日黒揚羽蝶生れ飛び翔ちぬ ジャズミンの香りに誘われる屋下がり ちらついで木の問越しなる鳳凰樹 熱き空熱き花園鳳凰樹

花より落つ露よけ外灯消し居りぬ 啄木鳥の虫を取りつつ夕映える 地を割って桜色の線香花火の芽 初葉をボケットに入れ心浮く

「評」2首目の結句「悲しき」を「見回す」5 首目「心優しく」を「ふり向き見つ」と入れ 替えてみた。主観語は控えた方が、ひろがりをもつ。でも決定打はバッテリーが好みに。実録は 説得力がある。 カベ 湯山 洋 勉強をせねばと思うは気持だけせず過ぎたなま け者吾 子ら果立ちなまけ心を戒めて最後のチャンスとペ ンを取りたり 半世紀振り続けし蹴よりも近頃握ったペンは重た し 重きペンを握って思案の夜の机窓辺の秋虫字字字 鳴くと 文字と鳴く虫に黙れと言いたいがこれ励まし忠 告と聞く 「評」後悔先に立たずと言う。しかし決して 「なまけ者」ではない。蹴とペンの比重、4、 5首の感覚は作者その人のもの。目頭が潤む 博

新年や滑り出し良き兆しあり年金いささか上る喜 しさ 通る人朝の挨拶さわやかに笑顔おとしてくる嬉 しさ

文芸を嗜む老いの生き甲斐と人と交わる楽しみが 夢うつつ詩(うた)の調べが浮び来て後半を自覚 めて覚悟する

「評」28首中から5首を選んだ。作品が水の 如く湧いて来るのはわかる。手もとにコビーを 残しているの知らないが、饅舌に近いものは 捨て、1枚に5首書いて送ること。そうしない と、採りも困るし、書き写す作業に手間取る。 自信をもっているのであれば、200首ずつで も纏めて歌集を出されるが良い。

「評」1首目3句で「盛りなり」と止めてある ので、5句の「風に舞い落つ」につなぎ、「小 さき花房」と体言止めにした方が作品が引き立 つのでは。参考までにふり替えて見た。5首目 の返信の楽しみがない理由づけのため、「返書 せし」などと考えて見たが如何や。

「評」2首目の結句「悲しき」を「見回す」5 首目「心優しく」を「ふり向き見つ」と入れ 替えてみた。主観語は控えた方が、ひろがりをもつ。でも決定打はバッテリーが好みに。実録は

「評」北球の歴史にこれほどに人類が文明を築 いたこともなかったろうし、これを驕りたか ぶった事もなかったのでは、こう考えるのは、 現在の我欲ではなく、これからの人類を思うか

「評」北球の歴史にこれほどに人類が文明を築 いたこともなかったろうし、これを驕りたか ぶった事もなかったのでは、こう考えるのは、 現在の我欲ではなく、これからの人類を思うか

読者文芸

木蔭句会 (2月分)

黒人のルーツを誇りサンバ 踊む 鈴木 文字

パソソンの疲れ目いやす 星月夜 吉田いぶ

斬新な着物スタイルサンバ 隊 香山 和栄

競い合ふサンバ衣裳の晴 舞台 菊池 信子

万葉のロマンを生み房子 月夜 重川 房

星月夜狂信の徒も祈るな り 角田 梢

養虫の養重たげや今日の 雨の吹く尺八の音牙ゆ星 月夜 猪野ミツエ

カルナル時代と共に変り 月夜 矢島もどり

カルナル昔の歌は調子 良く 箕輪美保子

木村都由子

投稿者におねがい

お読みやすい書体で書いてください。

投稿された原稿は返却できません。

フロッピー又はEメールでの投稿を歓迎します。送りはニッケイ新聞「読者文芸」欄へ。

Eメール nikkei@nikkeishimura.com.br

大鷹の牽引車なるサンバ 団 杉本 絃一

大陸の無限の空や星月夜 張り 武藤 栄

蝟の木の脚を大地に確と 張り 湯田南山子

糞虫や生涯移民といふ名 刻印 柝沢 秋穂

木漏れ日の金銀の糸風薫 木漏れ日 柝沢 秋穂

木村都由子







日系農業連絡会議

日本への輸出可能性探る

70人が全伯から事業報告

農林水産省の委託を受け、中央開発株式会社（瀬古）代表取締役社長、1946年設立の「中南米日系農業者連絡交流事業」の締めくくりに、第4回日系農業連絡会議が先月21日、ニッケイパラセ・ホテルで開催された。約70人が出席し、各事業の報告が行われた。



会議の様子

農林水産省の委託を受け、中央開発株式会社（瀬古）代表取締役社長、1946年設立の「中南米日系農業者連絡交流事業」の締めくくりに、第4回日系農業連絡会議が先月21日、ニッケイパラセ・ホテルで開催された。約70人が出席し、各事業の報告が行われた。



表紙

麻野涼新作『死の臓器』 非合法の臓器移植描く

本紙で好評連載中の小説「移り住みし者」のちの執筆で東京在住の作家、麻野涼氏がこの度、臓器移植を扱ったサスペンス小説『死の臓器』を文芸春秋から出版した。日系書店に注文すれば購入できる。

「移り住みし者」のちの執筆で東京在住の作家、麻野涼氏がこの度、臓器移植を扱ったサスペンス小説『死の臓器』を文芸春秋から出版した。日系書店に注文すれば購入できる。

一方、遺伝子組み換えでない商品が高く買い取りにくい。またはこの矛盾を解決する必要がある」と述べた。トロピカルフルーツなど日本での栽培が難しい作物や、規制のゆるい家畜用飼料は輸出可能性が高いという。

著者への意見、感想はこちら (takamada@ndt.ftv.com) まで。 麻野氏は1950年、埼玉県生まれ、早稲田大学卒業後、「移り住みし者たち」にあるようにブラジルに移住し、当時のパウリスタ新聞記者として、結婚した日系二世女性を連れて帰国、日本でフリージャーナリスト、小説家として活躍中。

移り住みし者たち

麻野涼

第27回

ブラジル文学に登場する日系人像を探る

——ジョゼフ・M・ルイテン「ブラジルのコルデル文学」——

民衆本にうたわれる日系人

中田みちよ

第3回

在ベレンの帝国領事館は閉鎖され、枢軸国人の家屋・住宅の焼き討ちが始まり、その住人は収容所に留置されました。国交断絶で、トメアスパー州の管轄下に入り、州営トメアスパー移住地となり、ベレンに収容されていた外国人(枢軸国人)たちはトメアスパー移住地に収容され、南拓、アマゾンア

産業などは財産を没収され、その当時、このコルデルが回りまわって、日本はヤられるだろうと日本人は米を食うからでかくなれない。アメリカ人は三人分だけおれたちはほうれん草を食べ、日本人は三つ葉、ミリチヤシのちっぽけりして

野菜を供給し、食生活を変えさせたのは日本移民です。ボバイの漫画が、というよりアメリカの漫画がブラジルでもはややれられていた時、後に日本のアニメが世界を制覇するようになるなど、想像できるように、1908年の導入から1930年代末までは、日本移民には目立った動きがなかった。と、かくこの国に定着するための準備で一杯だったころで

「移り住みし者」のちの執筆で東京在住の作家、麻野涼氏がこの度、臓器移植を扱ったサスペンス小説『死の臓器』を文芸春秋から出版した。日系書店に注文すれば購入できる。

「移り住みし者」のちの執筆で東京在住の作家、麻野涼氏がこの度、臓器移植を扱ったサスペンス小説『死の臓器』を文芸春秋から出版した。日系書店に注文すれば購入できる。

お知らせ ニッケイ新聞社本社 代表電話番号が変更となりました。 新しい番号は... (11) 3340-6060

kenko hirose 健康食品 プロポリス・アガリクス専門店 日本への発送もしております。 Rua Barão de Iguape, 208 - Liberdade - São Paulo

求・モトリスタ(コンビ) サンパウロ日本人学校 (委細面談) Tel: (11) 5511-5022 E-mail: spjimu@nethall.com.br

ADVOCACIA CIVIL CRIMINAL - TRABALHISTA Dr. PEDRO HANDA Rua da Glória, 332 5º andar - Sala 51 Liberdade - São Paulo - SP Tel. (11) 98208-3650

日葡辞典 R\$ 40,00 日本語 (ローマ字でも表記) から ポルトガル語 ニッケイ新聞社本社にて 取り扱っております お問い合わせは (11) 3340-6060

百年目の肖像 IMAGENS DO CENTENÁRIO 2008年 ブラジル日本移民 100周年を記念し 行われた各地のイベントを 写真集として... R\$ 80,00 お求めは本社まで Rua da Glória, 332 Liberdade - São Paulo (11) 3340-6060

外山脩著 『百年の水流』 日本語版 1180レアル 葡語版 1150レアル コロニアに起こった大事件を主軸に 百年の歴史を追い、未来考える







